

カラダはひとつしかないんだから

アリのキリギリス
石井正則の

友を訪ねて
秋田へ輪行の旅

17回目のワガママ「木製二輪玩具」の生まれ故郷へ
芸能界イチの街乗り派、
「アリのキリギリス」の石井正則さんと
ミニベロのカリスマとして知られる鈴木潤さんの
コンビでお届けしてきた当連載。実は、隠れキャラのように
第三の男が存在していたことにお気づきだろうか？
彼が手がけたという「木製二輪玩具」の正体を
確かめに、石井さんは鈴木さんを連れて北へ旅立った！

写真・文：編集部

当連載第三の男、準レギュラー的に登場してきた大野英憲さんを覚えていただろうか？箱根ヒルクライム（本誌9号掲載）でたどったリタイアするなど微妙な存在感を發揮してきたが、本業は家具やジュエリーのデザイナーだ。

そんな大野さんが、友人である石井さんと鈴木さんの影響を受けて「木製二輪玩具」を作ったという。二年前から秋田に通い詰め、その伝統工芸技術を活かして木製の自転車（児童用の二輪玩具）を作り上げた、らしい。

「え、あの大野さんが？ 伝統工芸？ 絶対うそだよ。うさん臭いな！」
友人ゆえの気安さからか、ハナから疑ってかかる石井さん。

「じゃあ、見に行きましようか？」
鈴木さんの提案で、二人は秋田を目指すことに。もちろんお供は自転車の輪行旅。秋田新幹線「こまち」に乗って、大野さんが待つ木工所へ向ったのだ。

湯沢駅。目指す木工所までは駅から約15kmの距離だ。目指す「みなせ木工」の入り口では、疑惑の男(?)大野さんが今や遅しと待ち構えていた。みなせ木工では、秋田県産や近隣の木材を活かして、家具や運動器具を作っている。薄い木材を積層して強度を高めた成型合板の加工を得意としているとのこと。

「ほら、思う存分に見てください。ここで僕がデザインした自転車を作ってもらってるんです！」
誇らしげな大野さん。自分のこだわりを形にできたのは、みなせ木工の代表である佐藤秀雄さんの情熱があったから、と語る。現場を見て、さすがの石井さんと鈴木さんも納得。

「こんな怪しいメカネがやってきて、いかがわしいと思いませんでしたか？」
当の本人を目の前にして、佐藤さんに失礼な質問をする石井さん。

「子供の頃、丸太を輪切りにしたりして、

profile
石井正則
1973年横浜生まれ。お笑いコンビ「アリのキリギリス」としてデビュー後、ドラマ・バラエティー・映画・CM・舞台などで幅広く活躍。
http://www.arikiri.jp/
鈴木潤
「自転車生活」を提案する横浜・山下町のセレクトショップ「グリーンサイクルステーション」代表。ミニベロ（小径車）をメインに扱う街乗りコーデイナー。
http://www.gcs-yokohama.com/



待ってるよ～大野!

輪行で楽々最寄り駅へ!
スタート地点は奥羽本線の湯沢駅



東京駅から秋田新幹線「こまち」に乗れば、秋田までは4時間ほど。今回は大曲から在来線乗り継いで県南部の湯沢で下車し、輪行してきた折りたたみ自転車に乗る。木製二輪玩具が作られているという木工所をめざすのだった。

木製二輪玩具のデザイナー、大野英憲さん。どこかで見たような……
石井さんの友人として、たびたび誌面に登場してきた謎の男、大野英憲さんの正体はプロダクトデザイナー。秋田の伝統工芸や曲げ木の技術に惚れ込み、ついに右のような木製二輪玩具を完成させた。

秋田県の伝統工芸「曲げ木」を活かした木製二輪玩具
大野さんがデザインしたのは、体重30kgまでの児童が対象の木製二輪玩具。秋田県産のブナ材を中心に積層した成型合板を、巧みに曲げたフレームやフォークが特徴だ。価格38,000円 問：ワークス・ギルド・ジャパン TEL.018-880-5145 http://www.wgj.co.jp



「もともとは曲げ木で椅子を作ろうとデザインを考えて、秋田を訪ねたんです。でも、思いのほか費用がかかるので悩んでいたところ、鈴木さんからドイツには木製の子供向け自転車がある、って聞いたんです。それなら、日本の技術、素材でもつといいものを作りたい。かわいだけじゃなくて、美しいと言ってもらえるような木製自転車を作りたい。」
と、佐藤さん。全体的なバランスや、最大の特徴である「曲げ木」細工を施す箇所について、大野さんと話し合い、試行錯誤しながら作っていったという。

自転車みたいなものを作って遊んだ記憶があります。だから、木で子供の自転車を作りたい、と言う大野さんに賛同したんです。僕も作ってみたいって」と、佐藤さん。全体的なバランスや、最大の特徴である「曲げ木」細工を施す箇所について、大野さんと話し合い、試行錯誤しながら作っていったという。



個性的な折りたたみ自転車でスタート
石井さんはバシフィックのキャリーミーII（価格68,250円 問：マルナカ）、鈴木さんはストライダ（価格65,000円～ 問：雙龍ジャパン）をチョイス。



天高く米実る秋田路を快走
極少タイヤの二台には少々厳しかった登り坂をなんとか乗り越え、のどかな水田や果樹園が広がる皆瀬の町へ。「稲庭うどん」で知られるエリアで、木製二輪玩具も作られているのだ。

ホントに作ってたんだ～



ていねいな作りですね



みなせ木工の作業現場にお邪魔し、工場長から木製二輪玩具の説明を受ける石井さん。「本当にここで作ってたんだ」と納得。というか、本当に疑っていたのか？



真正銘メイド・イン・ジャパン! 「みなせ木工」で製作現場を拝見

家具や学校教材（机や跳び箱など）を手がける、みなせ木工の伝統的な工芸技術を活かして木製二輪玩具は作られていた。「今まで見た“自転車工場”とはまったく違う現場ですね」と驚く鈴木さん。石井さんも「ぜんぶ、みなせさんが作ったんじゃないの？ ウソウソ。大野さん、よくホントによくやった!」と余計なひと言がありながら、友の頑張りがカタチになったことを喜んだ。



組み立てを待つ木製二輪玩具の部品たち。ハンドルの裏側は凹状に加工され、フォークと確実に固定する工夫が施されているのわかる。

ひからだは
ないんだから！



**ちよい乗り輪行で
自転車道へワープ**

蒸気機関車の模型をバックに出発進行！秋田市街から自転車道は延びているが、交通量が多い道避けるため、秋田駅からひと駅だけ輪行することに。美味しいところだけ走るのだ。



四ツ小屋駅から空港までは12km少々の距離。米所である秋田の農村風景を楽しむことができる好コースだ。



**秋田空港に到着！
最後に輪行ならではの
楽しみも**

全日空や日本航空は、自転車も無料で預け荷物として扱ってくれる。袋にしまってカウンターに預けてしまえば、輪行ならではの隠れた(?)楽しみを味わうこともOK。二日間の旅を振り返って乾杯！



また来るぞ、秋田！



**なんと空港まで続く
自転車道にアクセス！**
空港までの距離表示がある自転車道は全国的にも珍しいのでは？往路は鉄道復路は飛行機といるんな乗り物を楽しむことができるの輪行旅のメリット。



怖いくらいのどか

岩見川沿いの自転車道は、一般道から離れているので、本当に静かで清々しい気分が走ることができる。時折折り、左手を秋田新幹線が走るが、それも妙にゆっくりで、のどかな情景がどこまでも続く。

前のは時々はビールで乾杯！これも輪行ならではの楽しみだ。
100%近い人がクルマで到着するであろう空港ターミナルに、自転車でも乗りに付けて優越感にひたる二人。輪行袋に自転車をしまつてカウンターで預け、出発前のひと時はビールで乾杯！これも輪行ならではの楽しみだ。

「米ロードと名付けた。せつかくだから、地図の距離も、米と漢字で書いてほしいね」
岩見川に沿ったコースは、今回のような極小タイヤの折りたたみ自転車も快適なもので、浮かれて走る石井さん。ただし、川を逸れて空港に向う道はアップダウンがあり、8インチタイヤのキャリア1ミーターに乗る石井さんを少々苦しめたのだ。

「乙女心と秋の空は僕に任せて！」
あいにく当日は曇り空で、雨が落ちてきそうな気配だったが、石井さんが発する根拠なき自信を天も見放さず、天気は開放に向って晴れ間が広がってきた。初秋の自転車道は、黄金色に輝く稲穂との併走だった。

秋田市周辺にはいくつか大規模自転車道があるが、四ツ小屋駅の近くを通る秋田河辺雄和線を行けば、なんと秋田空港まで自転車に乗ってたどり着くことができる、と調べておいた鈴木さん。二人にとって見知らぬ土地だからこそ、案内図や距離標が設置されている自転車道は頼もしい存在だ。

不慣れた街中(秋田市街は東北きつての大都市)を走るの不安なので、自転車道にアクセスしやすい四ツ小屋駅まで輪行することにした二人。たつたひと駅だけだが、コンパクトになる折りたたみ自転車だからこそ、気軽に輪行を実行できるというわけ。

秋田市周辺にはいくつか大規模自転車道があるが、四ツ小屋駅の近くを通る秋田河辺雄和線を行けば、なんと秋田空港まで自転車に乗ってたどり着くことができる、と調べておいた鈴木さん。二人にとって見知らぬ土地だからこそ、案内図や距離標が設置されている自転車道は頼もしい存在だ。

「乙女心と秋の空は僕に任せて！」
あいにく当日は曇り空で、雨が落ちてきそうな気配だったが、石井さんが発する根拠なき自信を天も見放さず、天気は開放に向って晴れ間が広がってきた。初秋の自転車道は、黄金色に輝く稲穂との併走だった。

秋田市周辺にはいくつか大規模自転車道があるが、四ツ小屋駅の近くを通る秋田河辺雄和線を行けば、なんと秋田空港まで自転車に乗ってたどり着くことができる、と調べておいた鈴木さん。二人にとって見知らぬ土地だからこそ、案内図や距離標が設置されている自転車道は頼もしい存在だ。

「乙女心と秋の空は僕に任せて！」
あいにく当日は曇り空で、雨が落ちてきそうな気配だったが、石井さんが発する根拠なき自信を天も見放さず、天気は開放に向って晴れ間が広がってきた。初秋の自転車道は、黄金色に輝く稲穂との併走だった。



皆瀬にはブドウ畑が多い。「話せばもらえるよ」なんて言う大野。「またいい加減なこと言って！」と信じなかった二人だが、なんと本当にいただけてしまうという、うれしいハプニングも。

石井さんも認めざるを得ない出来栄を見せる木製二輪玩具。翌日は、その晴れの舞台を拝見するため、秋田市内にある勝平保育園へ3人で向った。この保育園では、木製二輪玩具のモニターに協力しているという。
現れたのは、年長組み(5、6歳児)の園児3人。二輪玩具にまたがって、庭をさつそうと走り始めた。地面をけつて進む乗り物なのに、思いのほか速い。石井さん、園児に襲いかかるが(もちろん



笑顔の園児たちに混じって、なんとも違和感なく二輪玩具に乗る石井さん。

ちょっと待ってくれ〜

よ〜いスタート!



一般の子供用自転車と同じ本格的な12インチタイヤを採用しているため、実際に転がりがスムーズで走りやすい。体格に合わせてサドル高さを調整できるので、子供が遊べる期間が長い。大きくなったら、成長の記念として部屋に飾りたい。

けれど、全部ピリに終わった石井さんだった。
「やっぱり木は温かみがあったいいですね」と園長の安部さんも納得の二輪玩具さ、お片づけだよ、と園児たちに声をかけてくれた。重量4・2kgと軽いから、大人でなくても扱いやすい。
「最初に保育園で二輪玩具が走るようす